

I 「主の祈り」の前半の3つは、まず神を第一とする祈りである事を学んだ。

- ①「御名があがめられますように」＝私達が、神に造られ、命をいただき生かされ、救われ、罪の赦しと永遠の命を価なしに与えられた私達が、まず第一にできるお礼、感謝、使命は、神の御名を崇める事、神の恵みを数え感謝し神を礼拝し、賛美する事。
- ②「御国が来ますように」。まず、私の心に御国（原語では、「神の御支配」の意。私が心の王座から降りて、主を心の王座に迎え、自分の欲望の自我の支配ではなくて、間違いのない神の御支配が満ちて、生活が変えられて行く御国）が来ますように。
- ③「みこころが天で行われるように地でも行われますように」＝「地でも」も、他人事ではなく、まず、私の心、私の生活において、自分のお心、間違った願いではなく、最善の神の御心が行われますように！と願い込めた祈り。

II 後半の3つは、「私たち」に関する祈り。私達に関する最初の祈りは、

「私たちの日ごとの糧をきょうもお与えください」：11。

1. 「私たち」。「私」ではなく、「私たち」。

自分だけではなく、他の人にも「日ごとの糧をきょうもお与えください」という愛に満ちた祈り。私達も、困っている人々の必要が満たされるように祈りたい。

2. 私達が祈り求めるべきものは、その日その日に十分なもの、必要なものだけ。

必要なものの為の祈り。食物は命の糧。これは、食物に限る必要はない。私達の物質的な必要の全部、生活に必要な全部を含んでいる。衣食住。震災に合われた方々の姿を見る時、衣食住がいかに大切か分かり祈らせられる。

また、靈的な日ごとの糧の必要も教えられる。

「人はパンだけで生きるのではなく、神の口から出る一つ一つのことばによる」マタイ4：4。

確かに、肉体の為の食物だけでは、心は養われない。

毎朝、ディポジション、神との交わりの時、「靈的な糧を今日もお与え下さい」と祈って、命のパンである聖書の御言葉を読み味わいたい。

この祈りの時にも覚えたい事は、天と地の造り主、万物の支配者である偉大な神が、私達を心から愛しておられるお父様として、私達の日ごとの糧を考えて下さるご用意があるという恵み。

「雀の一羽でも、あなたがたの父のお許しなしには地に落ちることはありません。

また、あなたがたの頭の毛さえも、みな数えられています。だから恐れることはありません。

あなたがたは、たくさんの雀よりすぐれた者です」10：29－31を覚えて祈りたい。

神が関心を持っておられない私達の領域はない。小さな私達の生涯の最小の部分まで、永遠の御座におられる御父の前に知られている。

私達に約束されているのは、真に必要なものを与えられるという事。何が必要かについての私達の考え、願いは、必ずしも神のお考えと同じではない。その為に、私達は、神の愛を誤解してしまう事がある。

「神は、私のことなんか、愛されていないのではないかと。しかし、事実は違う。

神は、命を懸けて（主が命を奉げ、私達の罪のために死んで下さったほどに）私達を愛しておられる。私達は、真に必要なものを祈り求めよと教えられている。いつも神に伺い祈りたい。

「今の私にとり、真に必要なものは何でしょうか？」と。

3. 神は、愛して下さっている私達に、一生涯の必要を一度にまとめて、与えては下さらない。

もし、一生分、与えられたなら、私達は、神が与えられたものに頼ってしまい、

与え主の神の事を忘れてしまう。

本日の祈りに「きょうも」お与えくださいとある。

「今日」は偶然にあるのではなく、今日と今日の私たちの命は、神が私達に与えられた大切な日、命。愛に満ちた神は、私達が、時々、1年に1度、数年に1度ではなく、今日も、毎日、絶えず、神に抛り頼み、神と交わるのを喜び、待ち望んでおられる。

親は子が来て話しかけるのを喜ぶ。

神は、私達に一括払いではなく、分割払いで、必要を与えて下さる。

だから、「日ごとの糧を」「きょうも」お与えくださいと祈るように教えられた。

偉大で愛の神は、私達が、神に近づくのを喜ばれる。本来、これは驚くべき恵み。偉大な神が、御父として、私達のご自身の子供である故に、私達が、神に近づき、交わり、祈り求める時間を喜ばれる。

「神は愛だから」（Iヨハネ4：8）です。

神は、私達の必要を全部知っておられるにもかかわらず、私達が、日毎の糧、必要を求めて祈る事は、神にとって大きな喜び。また、この祈りは、私達が、神に全面的に依存している事、

日毎の糧も、神の恵みなしには、本来は食べられない事を自覚するよう教えている。

食前の祈りは、その恵みを自覚、確認する時でもある。

「何一つ、当然、当たり前のもはない」という大切な自覚！

本当は、神のお心一つで、私達は、日毎の糧も食べられなくなる。

天と地を造られた偉大な神は、太陽とその恩恵をとどめることが出来、雨を止める事もお出来になる。この地を荒地とし、人間がどんな技術と肥料をつぎ込んでも、何も実らないようになさることもおできになる。神は、すべてを吹き枯らす事もおできになる。

私達は、徹頭徹尾、神の御手にある存在。

人間は愚かにも、知識や技術が高まると（その知恵と能力は神が与えられたものなのに、それを自覚できず）、神から独立して、自分達の手で生きていると大きな思い違いをしてしまっている。

私達は、神の恵みなしには1日も生きる事は出来ない。神が支えて下さらなければ、

何一つ存在し続ける事はできないのである。

「わたしたちの日ごとの糧をきょうもお与えください」と少なくとも一日に一回は祈りたい。

その度に、私達に与えられた時間、健康、命自体が、神の御手にある、神の恵みである事を自覚する事は有益。

私達の食物、霊的な食物他、必要なすべては神から来ている。私達は、神の恵みと憐れみに依存して必要をえているのである。心から神を崇め、心から必要を具体的に祈り求めたい。

